



チリのパラ選手団が来ます！

カリパ通信第9号
加美町

8月8～27日の3週間、チリパラカヌー選手1名とパラ陸上選手3名が加美町で直前合宿を行います！



どんな選手たちが来る？

パラカヌー

カテリン・ウォラーマン選手
(KL1)

2012年に突発的な感染症により車いす生活に。すっかり氣力を失っていたカテリンがリハビリでカヌーと出会います。「水の上では自分の思うがままに進める。まるで自分の足で歩いているみたい！」とカヌーに夢中になり、3カ月後は世界大会に出場するまで急成長。その後は2016年リオ大会で4位。2019年パラカヌーワールドカップで銅メダル獲得し、東京大会出場決定！

パラカヌーってどんな競技？

パラカヌーは、2016年リオ大会から正式競技となり、オリンピックのカヌーと同じ競技専用のカヌー船を使用し、200mの直線コースでタイムを争う競技です。パラカヌーでは、障がいの程度や運動機能によって3つのクラスに分けられています。



パラカヌークラス分け

-  L1 胴体が動かず、肩と腕の機能だけで漕ぐ選手
(カテリン選手)
-  L2 胴体と腕を使って漕ぐ選手。体感のバランスが効く
-  L3 腰・胴体・腕を使い、力を入れて踏ん張って漕ぐ選手

パラ陸上クラス分け

パラ陸上

アマンダ・セルナ選手
(200m/400m・T47)



先天性の左前腕欠損でありながら、幼い頃からスポーツが好きで、小学校時代から陸上を始めました。リオ大会では4位の成績を収め、今年5月の世界大会では、200mと400mで金メダルを獲得。東京大会では、表彰台に上がることが目標です！

クリスチャン・バレンスエラ選手
(1500m/5000m・T11)



12歳の時に緑内障により失明。23歳で陸上を始め、1年後には世界大会に出場。これまでパラリンピック大会に3回出場し、ロンドン大会ではチリ唯一のパラ金メダリストに輝きました。4度目となる東京大会では、2つ目の金メダルを獲得が目標です！

フランシスカ・マルドネス選手
(投てき F54)



22歳の時から、車いす生活に。リハビリで車いすテニスを始め、パラリンピック大会に2度の出場。2018年にパラ陸上に転向し、今年3月の世界大会では、円盤投げと砲丸投げで金メダルを獲得しました。

パラ陸上ってどんな競技？

パラ陸上は第1回ローマ大会から実施されています。幅広い障がいの選手が出場するため、パラリンピックの中では、人気のある競技です。

投てき



F54 切断・機能障害
(マルドネス選手)

両手の機能は正常、もしくはほぼ正常。腹筋と下部背筋の機能が無い。

砲丸投げや円盤投げなどの投てき種目では、選手の体格に合わせて造られたオリジナルのプラットフォーム（投てき台）に体を固定して上半身の力だけで投げ、距離を競います。

トラック



T47 上肢切断・上肢機能障害 T11 視覚障害
(セルナ選手) (バレンスエラ選手)

片側の前腕部で切断、もしくは視力が0.0025未満。競技中は先天性の奇形のある選手。不透明なゴーグルを着用。

多くの選手はスタートや走るときにバランスをとるために、義手を付けて競技します。義手の形は選手ごとにさまざまで、義手を使わない選手もいます。

トラック種目では、ガイドランナーと呼ばれるアシスタントがいます。ガイドランナーは選手と1本のロープを握り合い、横で声をかけながら走ります。ガイドランナーの最大の役目は、選手を安全にゴールまで導くことです。選手と一緒に走りながら、段差や坂道、カーブなどコースの状況を言葉で伝え、全力でサポートします。